

ISHINOMAKI

ポテト通信

2024

11



秋晴れの中みんな
さつまいもの収穫

さつまいもの 収穫と 今後の課題

今シーズンもさつまいもの収穫が終了しました。今作は、前年ほどの猛暑ではないことに加え、定期的に雨が降ったため、いもの肥大が順調に進みました。

1 haでさつまいもを栽培している（農）エコルファームでは、つるぼけ防止や形のいいもを生産する目的で無肥料で栽培したことにより、順調に肥大し、ほとんどがA品となり、品質面でも良好な年になりました。



（農）エコルファームの収穫作業の様子

令和5年産



さつまいもの
掘り上げを進めます



さつまいもをコンテナに拾い上げ軽トラまで運びます

さつまいもが入ったコンテナを
人力で軽トラまで運ぶのは重労働…

令和6年産の収穫作業では、さつまいもが入った重いコンテナを持ち運ぶ距離が短くなるように工夫され、体への負担軽減と作業の効率化が図られています。

現在の課題としては、土壌分析による窒素過多の防止や定期的な病害虫防除、植付け後の除草剤による土壌処理剤と茎葉処理剤散布、高温による病害虫の早期発生や雑草の繁茂及びつるぼけの防止が必要です。

令和6年産



掘り上げと同時にさつまいもを軽トラに拾っていきます



大きさや品質ごとに仕分け作業をします

さつまいもを含め露地園芸品目の栽培では、排水対策が必須となります。耕盤破碎を行い、定植後も明渠の施工など排水対策を徹底しましょう。どのポイントを欠いても収量減少につながるため、丁寧なほ場準備が重要です。



令和6年産石巻地域加工用ばれいしょ実績検討会

令和6年11月8日開催の「令和6年産石巻地域加工用ばれいしょ実績検討会」では、加工用ばれいしょに取り組む5法人が本年産ばれいしょ栽培の検討を行いました。

1 令和6年の気象経過と生育状況

気温は6月初旬を除きほぼ高めに推移したため、例年よりも植え付けが遅くても、開花は例年並みか早まりました。近年の高温傾向から、石巻地域では4/15までの播種なら十分な収量を得られるようです。

降水量は、石巻アメダスデータによると下表のとおりです。1か月に1回程度大雨が降り、特に4/9の大雨では、それ以前に植えた種いもが腐る事例が発生しました。

4月から8月の大雨時の降水量 (単位:mm)

月日	4/9	5/13	6/2	7/8	8/12
降水量	74	56	60	44	43

2 カルビーポテト(株)による講評

- 石巻地域では排水対策などの栽培管理と収穫後の作業が丁寧に行われており、品質の良いいもが生産された。
- 尿素による追肥も徹底され、生育終盤まで地上部の草勢が保たれた結果、いもの肥大が進んだ。



明渠からの排水

3 意見交換 ※法人5社の主な発言内容

ほ場づくりと植付け

- 土が湿った状態での耕耘は砕土率が低下。可能な限りほ場が乾く頃に作業したい。
- スタブルカルチの深耕により、排水性が良くなり、大雨時もほ場に滞水しなかった。

病害虫防除及び肥培管理

- 尿素の液肥を定期的に散布して葉色を保てた。薬剤散布のたびに、混用して追肥した。
- 防除はカルビーポテト(株)の防除プログラムに従って定期的に薬剤散布した。

収穫・調整

- 選別機利用で収穫・出荷作業がスムーズで非常に助かった。
- 収穫機械による土塊の拾い上げで作業効率が低下する。畑づくりや収穫機械の利用調整に留意が必要。

(参考事例) 耕種概要

排水対策	暗渠(有 無)		その他排水対策：額縁明渠	
植付月日	令和6年4月16日		植付量	180kg/10a
基肥・追肥	品名		散布量	散布日
	牛堆肥		4t/10a	2月~3月
	オール14化成肥料		60kg/10a	4月11日
	硫酸加里		10kg/10a	4月12日
	畑のカルシウム		30kg/10a	4月12日
	尿素1.1%溶液		※薬剤散布日と併せて実施	5月24、27、30日 6月7、12、17、22、30日 7月6日(10回)
除草剤散布	薬剤名		使用量	散布日
	ラクサー乳剤		600ml/100ℓ/10a	4月20日
	センコル水和剤		100g/100ℓ/10a	4月27日
	ポルトフロアブル		200ml/100ℓ/10a	5月30日

農事組合法人 エコルフーム 取組事例紹介

農事組合法人エコルフームは、河南地区で大規模に水稲等の作物を生産する農業法人で、生産する作物間で作業の分散ができるということもあり、令和3年からさつまいも栽培に取り組んでいます。

さつまいもは、ほかの作物同様に排水の悪いほ場では生産が難しいことから、排水の良い水田を選定して作付けし、初年度から高品質のさつまいもを収穫しています。苗はJAいしのまきを通じて入手し、入梅前の6月初旬に地域の人たちの手を借りて定植しています。順調に生育すれば、稲刈りが終了する10月20日頃に収穫します。

同法人では、さつまいもを栽培するようになってからは、需要の高い焼き芋サイズのさつまいもを生産するために、無窒素栽培やさつまいもの肥大期である8月初旬にモアで新芽を切るなど、毎年色々と試行錯誤を続け、目標とするサイズのさつまいもを生産できるように努めてきました。取組当初に苦労したのは、掘り取り後の収穫さつまいもをコンテナに入れて人力で運搬する作業でしたが、現在は、機械の力も借りながら、課題を解決してきました。

令和6年産は豊作で、収穫には当初見込んでいた倍の日数がかかったとのこと。苗調達と販売先の課題はあるものの、水稲作業の合間に栽培できるさつまいも栽培は収益性はもちろん、従業員みなさんに効率よく働いてもらう点でも評価されています。



(農)エコルフームのほ場



現地検討会の様子



(農)エコルフーム 代表理事 後藤 嘉伸 氏



さつまいもの選別・調整作業

